第4回 品川区教育振興基本計画策定委員会 会議録（議事要旨）

日 時：令和6年12月19日（木）09:30～11:20

場 所：品川区役所第二庁舎8階 教育委員室

出席者：

委員	(出席委員) 樋口委員長、鞍馬副委員長、金子委員、市川委員、松本委員、吉田委員、加藤委員、和田委員、外山委員、江藤委員、野口委員、薄木委員 (欠席委員) 宮崎委員、石黒委員、丸山委員
事務局	米田教育次長、船木庶務課長、柏木学務課長、中谷指導課長、丸谷教育総合支援センター長、唐澤特別支援教育担当課長、河内品川図書館長、齊藤統括指導主事、升屋統括指導主事
その他	庶務課庶務係 担当者2名、策定支援業務受託事業者 担当者2名

1. 開会

2. 委員長挨拶

3. 委員の変更について

4. 議事

- (1) パブリックコメントについて
- (2) 子どもワークショップについて
- (3) 品川区教育振興基本計画素案について

【議事概要】

- (1) パブリックコメントについて
パブリックコメント実施結果を報告するとともに回答案を提示した。
回答案については一部修正を要するが、概ね原案のとおり委員の了承を得た。

<主な意見・質疑>
(委員質疑)

資料3、意見 No. 5 の回答案における「子どもたちへの意見聴取」ではどのような意見が聞かれたのか。

(委員長回答)

議事(2)にて丁寧に説明する予定である。

(委員質疑)

資料3によれば、パブリックコメントの結果を踏まえて計画へ反映した意見について反映欄に「○」がついている。いただいた意見は、計画へ反映したか、反映しないかのいずれかとのことで、反映されなかった意見は、その意見がすでに計画に含まれているものなのか

(事務局回答)

意見のほとんどは、今後計画を推進するにあたっての個別具体的な取り組みに関するものである。個別具体的な取り組みについては、今後、本計画に基づくアクションプランを定める中で検討する内容であるため反映していない。また、相反するご意見については、一方を反映すればもう一方が反映できないというものもあった。これらを事務局で精査した結果、資料3のとおり3つの意見を反映するという考え方で整理した。

(委員長補足)

基本計画の策定という性質上、パブリックコメントでいただく意見はどのような内容でも当てはまる。しかし、個別具体的な取り組みなど、もとより本計画に記載のない内容については直接的に反映することが難しい場合もある。

(委員意見)

資料3、意見 No. 17 の回答において「スチューデント・シティ」、「CAPS」、「ファイナンス・パーク」がどういった取り組みか読み取ることができないので補足があると分かりやすい。

(委員長回答)

補足説明について検討する。

(2) 子どもワークショップについて

子どもたちへの意見聴取として9月に実施した子どもワークショップの実施概要および実施結果について報告を行った。

<主な意見・質疑>

(委員質疑)

パブリックコメントについての議事で質問のあった、子どもたちへの意見聴取において子どもたちから出た意見は資料4のP. 3に掲載されているとの理解で良いか。

(事務局回答)

資料4のP. 3、項番4「結果概要」に黒丸が4つあるが、この4つが子どもワークショップを通じて出された主な意見をまとめたものである。

(委員長補足)

3日間で4グループ、計12のグループから出た意見がP. 4以降に掲載されており、

これを集約したものが資料3ページ、項番4「結果概要」の黒丸4つである。

(委員質疑)

子どもたちの意見がどのように計画へと反映されたかについて、計画素案上では資料5のP.43のとおり「計画に反映しました」としか書いてない。計画のどの辺りに子どもたちの意見が反映されたのか、紙面で分かるが良い。

(事務局回答)

意見反映箇所を示した方が分かりやすいという考えもあれば、意見を反映したことを前提として作り上げた計画ということで具体的な反映箇所まで明記しないという考えもある。その辺りも踏まえてご審議いただきたい。

(委員質疑)

資料4、P.4以降に子どもたちの意見が掲載されているが、P.10では、意見の文頭に下向きの矢印がついており、これは次の文章と関係していて、付箋に書いた表現がそのまま乗っているのかなど、一目見たときに分かりづらい。また、P.13の「グットプロジェクト」など、学校独自の取り組み名称への注釈があると良い。

(事務局回答)

資料4、P.4以降は本日の委員会のために、余すことなく当日に出された付箋のままを掲載している。なお、子どもワークショップの実施報告については、計画における資料として資料4を抜粋したものを掲載予定である。

(委員意見)

当日見学させていただいた。参加者は当日が初顔合わせの状態ですスタートし、初めは緊張した様子が伝わったが、グループワークが進むと話が盛り上がり、様々な意見が出るようになった。全体を通じて穏やかで、こういった場をとおして子どもたちが幸せについて考える機会を持つのは良い取り組みだと感じた。

(3) 品川区教育振興基本計画素案について

前回会議で得られた委員の意見やパブリックコメントの結果、子どもたちへの意見聴取の結果等を踏まえて事務局が修正した計画素案を提示のうえ説明し、その内容について委員の意見を伺い、引き続き検討を進めることとした。

<主な意見>

(委員意見)

資料5、計画素案P.26、学びの羅針盤について、非常に見やすくなって、立体的で奥行きのある図になったためとても分かりやすい。

また、本計画では漢字とカタカナが併記された記載が以前より増えており、より理解が深まるのではないかと思う。とても良い点である。

(委員意見)

資料5、計画素案P.46以降に掲載している「これまでの取組事例」について、P.49、方針5「グローバル・イノベーションを担う人材育成と職業実践力の育成」は項目名からすると、品川英語力向上推進プランが先のほうが良い。P.50、方針6「学校家庭地域の連携・協働による教育」も、先に地域とともにある学校づくりを挙げた方が良

い。

(委員意見)

資料5、計画素案P.9の図について、品川区教育委員会という言葉が、囲みの部分に2か所使用されているので、この位置づけの扱いはご検討いただきたい。また、策定委員会が教育委員会の枠の中に含まれていて良いのかも合わせて検討いただきたい。

(委員意見)

資料5、計画素案P.20、年表について、2003年の「小中一貫特区」は「小中一貫教育特区」の方が適切ではないか。

(委員意見)

資料5、計画素案P.29「施策体系」を見ると、目指す子ども像や、どのような力を身に付けた子どもたちを育てたいかが記載されていない。その後の計画本文を見ると記載はあるが、重点的にこういう子どもを育てたいとか、こういう力をつけさせたいといった内容を施策体系にも盛り込みたい。少なくとも概要版として示す際には、そういった内容が分かりやすく記載できると良い。

また、同じく素案P.29の「施策体系」で、ウェルビーイングという言葉の要件や要素など、ウェルビーイングをもう少し具体的に示すことができると良い。

(事務局回答)

ウェルビーイングをもう少し明確にという点では、施策体系のうち、ビジョンである「子どもたちの笑顔でつながる共生社会」という文言が、区の教育で目指すべきウェルビーイングのキーワードと捉えており、施策体系の中でこれ以上にウェルビーイングの定義を記載することは考えてはいない。

(委員質疑)

資料5、計画素案P.26「学びの羅針盤」について、このページだけ見てもウェルビーイングの具体的な説明がない。この中に文章としてウェルビーイングの説明を加えると良いのではないか。

(事務局回答)

ウェルビーイングをもう少し明確にという点では、学びの羅針盤のイラストに大きく太字で記載されている「子どもたちの笑顔でつながる共生社会」という文言が本計画におけるビジョンであり、区の教育で目指すべきウェルビーイングのキーワードと捉えており、イラストの中でこれ以上にウェルビーイングの定義を記載することは考えてはいない。

(委員意見)

資料5、計画素案P.26「学びの羅針盤」における重点施策について、本計画においてウェルビーイングとは包括的な目標のようなイメージがあり、その下に様々な政策があるという構成であることを踏まえると、重点施策の中にもウェルビーイングという言葉が使用されていることに違和感を覚える。

また、4つの重点施策として品川区は今後取り組んでいくことだが、項目ごとに桁が大きいものもあれば、非常に桁が小さい項目もあり、4つの重点施策と計画の整合性が取れているのか心配である。

例えば、レジリエンス育成の推進は、方針3の中の一つの目標といった箇所なので、レジリエンス育成の推進とウェルビーイング教育の推進が並列で並んでいいのかというところに疑問を感じる。

また、個別最適な学びを実現する環境整備という項目も、個別最適な学びだけでいいのか。協働的な学びとセットで素案の方針に記載されている中、個別最適な学びだけを取り出したところも疑問である。4つの重点施策と計画の整合性が難しいところだと感じた。

(委員意見)

ウェルビーイングが話題になっているが、私が住んでいる地域の神社の祭礼が、まさにウェルビーイング実現の最高のものではないかと思う。近隣の学校に異動した校長先生から、この地域は上下の関係が非常に良くできているといわれることもあったが、これは祭礼を中心とした子どもたちの集まりが非常に徹底しており、太鼓を叩いたり、笛を吹いたりこれをすべて先輩から教わる。そういった中で子どもたちが一生懸命勉強する。そんなことがウェルビーイングにつながっていると感じる。

(委員意見)

先ほどカタカナが多いという意見が出ていたが、私もそう感じる。例えば、計画素案P.34、方針7では「すべての子どもたちがお互いの違いを認め合い、高め合う協働的な学び(ダイバーシティ&インクルージョン)」と記載しているが、P.31、柱の2では「ダイバーシティ&インクルージョン(多様性と包摂)」という記載になっており一貫性がない。カタカナを使用するのであれば、少し丁寧に説明したほうが良い。

(委員意見)

他区の教育振興基本計画の方を確認すると、カタカナ語を分かりやすい言葉で、誰もが理解しやすい言葉に噛み砕いている例も多い。

(委員質疑)

資料5、計画素案P.26、学びの羅針盤のイラストについて、羅針盤の中に「Action(行動)」などと記載しているが、なぜ英語で記載するのか。

(委員長回答)

資料5、計画素案P.26、学びの羅針盤のイラストはP.14にあるとおりOECDの学びの羅針盤をもとに作成し、これを翻訳しているために残った記載である。

(委員意見)

資料5、計画素案P.26、学びの羅針盤のイラストを改めて確認する中で、羅針盤に養いたい力が記載されていることを認識したが、これだけだと、多様な他者を尊重し協働する力、他者に対して、他者と共に、という力がここには記載されていないと感じた。他者を尊重して協働する力について記載すべきである。

(委員意見)

資料7、計画概要版について、区民全般に広く周知ということであれば、学びの羅針盤のイラストの中で掲載しきれない部分について概要版に盛り込むことができると良い。今回資料として提案いただいた概要版は計画の抜粋版になっており、文字量が非常に多い。広く区民の方に理解を求めるのであれば、今回行った議論を含めて概要版において少しでも反映されると良い

(委員意見)

区のシンボルマークに使用している品川パープルを取り入れると良い。

(委員意見)

資料5、計画素案 P. 26 の学びの羅針盤と P. 28 のビジョンについて、入り組んだ文章だと感じた。可能な範囲で誰が手に取っても読みやすい文章を目指すが良い。

学びの羅針盤本文については、冒頭の「子どもたちは～」という一文が長く、読み手が混乱するのではないか。ビジョンについては、冒頭2文目が長く、途中で切ったほうが良いという印象を持った。

(委員意見)

私には小学生の息子と幼稚園の娘がいる。こういった会議に参加するのは初めてで、区がこういった話し合いを区民参加で行っていること自体を知らなかったため、興味深く意見を聞かせていただいた。

こうした取り組みが行われていることを知らないということがもったいなく感じるため、計画やその概要版が広く発信されると良い。

(委員質疑)

資料5、計画素案 P. 9 について、「子どもたちへの意見聴取」は掲載されているが、「区民意見公募」は「パブリックコメントを実施後に掲載」となっている。ここに記載が追記されるとの認識で良いか。

(事務局回答)

お見込みのとおり、子どもたちへの意見聴取と同じような数行の説明を入れる予定である。

5. 連絡事項

6. 閉会